

# ●せいけん質問箱

## 合掌・礼拝にはどのような意味が？

●質問  
合掌・礼拝にはどのような意味があるのでしょうか。

□合掌と私たちの社会□  
かつて小学校では、合掌し、「いただきます」と大きな声で言ってから、給食をいただいていた。このことからわかるように、合掌は仏教・浄土真宗の中だけでなく、日本の文化・生活の中に広く浸透してしました。また、世界に眼を転じて、また、仏教以外の諸宗教に合掌あるいは合掌に似た礼拝の形を見ることができま。このように合掌が文化の違いを超え、また宗教内だけでとどまらず広く受容されてきたのは、この行為に普遍的な意味が感じられたからではないでしょうか。

□挨拶としての合掌・礼拝□  
インドでは、仏教興起以前から、合掌が挨拶として行われていました。現在も「ナマス・テー」と声をかけ、合掌し礼拝する挨拶が行われています。この「ナマス」は「南無阿彌陀仏」の「南無」に相当し、お辞儀することを意味しています。「テ」は「あなたに」の意味です。このように、インドの挨拶の中に、合掌・念仏・礼拝の原型を全て見ることができま。しかし、形は同じでもその意味までも同じというわけではありません。まずは、仏教における礼拝の意味を見てみましよう。

ままたの略式の礼で「揖」と言われます。現在、焼香前に行われている一礼が、これに近いものと推定されま。二は膝を屈し、頭を地に着けない礼拝で「跪」と言われます。「跪」の字は、かかとを立ててひざまづく姿を意味しており、長跪・胡跪がこれに含まれま。三は「稽首」です。相手の足に額を着けて行われるもので、これが最も丁寧な礼拝とされま。五体投地はこの中に分類されま。

く…… (一一頁)  
法蔵菩薩は、まず、先の三分類中の稽首を行い、続いて右繞三匝して、続いて右繞三匝も礼拝の一形式であり、右肩を内側に向け三周するといふものです。この時、通常は右肩から衣をはずし、右の肩を露わにして敬意を示しま。以上のような丁寧な礼拝を行った上で、法蔵菩薩は両膝を地につけ合掌し、「讚仏偈」を以て仏を讚歎するのです。

□礼拝の意味□  
西国から中国にやって来た勒那三蔵は、礼拝の仕方の中で彼は、二つの悪い礼拝の仕方を説いています。一つは高慢な心のままの礼拝です。この礼拝では、自らをたのむ心が強く、謙虚さを欠き、教えを聞く態勢になれないと指摘しま。第二に、心が伴っていない礼拝です。口では讚歎し体

でも敬意を示すが、心が散漫なままで相手に向けられていないと説明されま。この礼拝に関する教示から二つのことがわかります。一つは、つつしみの心を持ち、相手に思いを注ぎ、更には教えを聞き受ける態勢となること。礼拝の意味であるといふことです。もう一点は、礼拝は身体的な行為ですが、行為の基本になつていく心のあり方こそが、礼拝する上で重要であるといふことです。

善無畏三蔵「大日経疏」では、合掌を十二種に分類し、この中、最も基本的な形となるのが、両掌をきちんと合せる堅実心合掌です。この形は、心が一つになつていくことを示していることとされま。更に、元照律師「四分律行事鈔資持記」には「合掌は心想事成るなり」と説かれていま。これらは全て、同じことを指摘していると言えま。即ち、基本的な合掌の形は、心を対象に向け集中し、一心になつたことを表しているといふことです。

と説かれました。「帰命」は、「ナマス」(南無)の訳語であり、原語は挨拶時の言葉と同じものです。しかし、訳語である「帰命」の文字通りの意味は「命に帰する」です。真宗では、本願に帰せよとの阿彌陀仏の仰せにしたがうことを意味しています。これが単なる敬いの意味でないことは明らかです。同じ言葉(かつ同じ行為)でありながら、仏教内において、信仰の内実を承け、意味が深化していったと言えるでしょう。

ちですが、仏教における礼拝は、自分の心を整えていくということに、あくまでも重点があるといふことも確認しま。私たちの日常を振り返れば、様々な事がらに心は千々に乱れ続け、本当に大切なことを見失いがちです。そんな日常の中で、手を合せ礼拝し、心を整える時間があることは、どれほど私たちに豊かさを与えてくれることでしょうか。

最後にになりましたが、合掌はなぜ普遍的なのでしょう。それは合掌が、大切なものに触れた時、真宗で言えれば阿彌陀如来の救いに出遇った時に思わず表れる姿だからではないでしょうか。私たちは、合掌・礼拝の姿となつて表れた真宗の教えを喜ぶ心を、大切に継承していかねばなりません。

### □合掌の形と意味□

唐時代に編纂された『法苑珠林』は、合掌について敬意を表すと同時に、乱れやすい心を制御する行為であると説明しま。また、合掌する時に、両掌の間に隙間ができた時、指が揃っていないのは、心のゆるみを示すとも説かれま。次に、

□礼拝と帰命□  
曇鸞大師は、『往生論註』で「帰命は礼拝である。しかし、礼拝は恭敬に過ぎず、帰命であるとは限らない」(七祖五二頁、取意)と帰命と礼拝の違いを示し、「帰命」が礼拝に比べて、強く重い意味を持つている

□合掌と礼拝の意義□  
これまで、礼拝・合掌という一連の行為が、敬意を示すこと、つつしみの心を持つこと、相手に心を専注し一心になること、法を聞く態勢になることであることとを確認してきま。また、東アジア文化圏に住む私たちは、相手に見せるためのものと礼を考えが

(教学伝道研究センター常任研究員 藤丸智雄)